未来の日本を創る

# 農業担い人

THE FUTURE of JAPAN CREATE

PROFILE

近藤 善成（こんどう よしなり）さん

KONDO YOSHINARI

56歳

あま市下萱津

## 都市近郊で挑む持続可能な農業

あま市にある8アールの圃場で夏にモロヘイヤ、冬にホウレンソウを栽培する近藤さんは、24歳の時にご両親から土地を引き継いで以来、32年間この地で農業を続けています。

「就農したころは景気が良く、想像よりも稼げる仕事だと感じました」と当時を振り返る近藤さん。しかし現在は肥料価格の高騰やインフレの影響を受け、農業経営への意識がますます重要になっている一方で、都市近郊の市街化地域では地価が上昇し、規模の拡大は難しくなっていると話します。近藤さんは家族での営農を基本に、現在は奥さま、お母さまと3人で作業を行っています。

人手の限られる中で大切にしているのが、少ない労力で安定した出荷を行える仕組み作りです。その一環として、栽培品目をモロヘイヤとホウレンソウの2品目に絞り、作業の負担軽減を図っています。「品目が多いと出荷や栽培作業が複雑になり、負担が大きくなるんです。自分たちの暮らしを守るために、必要な収入を確保できる栽培方法を考えています」と話します。また、効率的な出荷体制を維持するため、スケジュールに基づいた栽培を心掛けています。

収穫のピーク時には、夕方から収穫を始めて、翌日昼までに出荷調整作業を終え、再び収穫に取り掛かる忙しい日々を送っています。露地栽培では天候の影響を避けることは難しく、庄内川河川敷の圃場では夏に大雨による洪水で作物が浸水するリスクもあります。「洪水があっても強く育つ作物としてモロヘイヤを選んでいますが、毎年変わる気候に柔軟に対応するには技術と経験が必要になります」と露地栽培の難しさを話します。

都市近郊で農業を続ける上で、負担の軽減と経営の工夫を欠かさない近藤さん。「農業は体が資本。これからも体を大事にして、自分たちのペースで続けていきたいです」と意気込みを語ります。